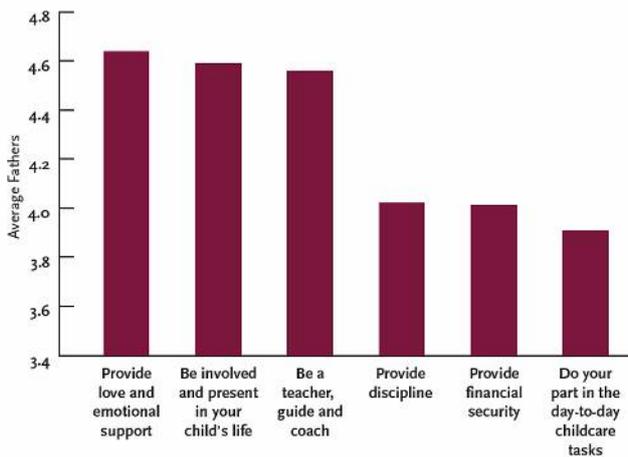


家族を想い、仕事に打込み、そして苦闘する父親

ボストン大学ワーク&ファミリーセンターが大手企業4社1000人のアメリカの父親に対して行なった調査結果が7月に発表された。The New Dad: Caring, Committed and Conflictedと題する報告は、仕事と家族を大切にし、同時にキャリアでの成功を目指し頑張る父親、そして仕事と家庭の間で苦闘している父親の像を描いている。その主な内容を紹介したい。

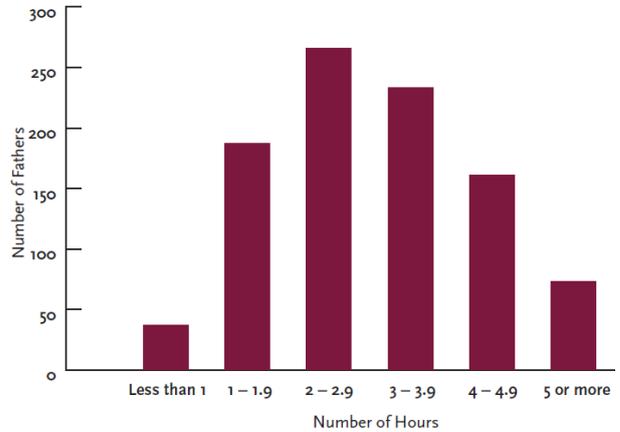
下のグラフは「良き父親であるために最も大切な視点は？」との質問に対する回答である。スケール5は「非常に大切である」、スケール3は「大切である」、スケール1は「大切でない」を示す。この結果から米国における良き父親像が浮かんでくる。6つの視点の中で「愛情を注ぎ、感情面で支える」「子供の生活に寄り添う」「先生、ガイド、コーチの役割」といった視点が特に高い支持を得ている。しかしながら、興味深いのは現実においては「日常的な子供の世話で自分の役割を果たす」という視点が最も低い評価になっていることだ。子供に寄り添いたいという願望を持ちながら、日常的には父親がその役割を十分に果たせてないことを示している。65%の父親が「両親が平等に育児に役割を担うべき」と思っているが、現実には平等に担っているのは30%の父親しかいないことを調査は示している。ちなみに配偶者あるいはパートナーの43%はフルタイムで、26%がパートタイムで勤務している。



勤務日に平均 2.65 時間を子供と過ごす父親

日常的な子供の世話を十分に果たせていないと思っている父親たちの労働時間を見てみると、46%の父親は毎週46-55時間、19%の父親は55時間以上勤務している。平均すればほぼ半数以上が毎日2-3時間は残業していると判断できる。

一方で、そのような多忙な父親は子供たちと毎日どれほど時間を費やしているかを右上のグラフが示している。平均すると2.65時間だ。22%の父親たちは現状のこの時間数で満足しており、77%はもっと子供たちと一緒に過ごしたいと思っている。ちなみに



に、この調査に参加した1000人のホワイトカラーの中位数は年齢が43歳、子供の数は2人、子供の年齢は10歳である。

フレキシブル勤務は自分のキャリアに不利と判断

組織内でマイナスイメージを避けるために、父親たちは(フレキシブル勤務を正式に申し出るのではなく)内密に在宅勤務やコンプレストワーク(平日の労働時間を増やし、その分半日あるいは一日休日とする)などのフレキシブル勤務を行なうほうが都合良いと思っている。調査では 99%の父親は「例えば子供が生まれようと、自分たちの上司は以前と同じあるいはそれ以上のことを達成することを期待している」と語る。上司からこのような期待があるため、またフレキシブル勤務を利用するとキャリアに不利に働くと多くの組織で信じられているために、父親は内密の形で実質的なフレキシブル勤務を行なっていることを調査は示している。ちなみに、育児短時間勤務の申請・利用者は一人もいなかった。

調査を行なったボストン大学ワーク&ファミリーセンターは「仕事と家族を大切にすること」と「キャリアでの成功を目指すこと」の両立がキャリアウーマンの場合に困難であると同様に、働く父親においても、両立は現実には厳しいと悲観的である。そして父親に対し、一人の人間として、家庭人として目指すゴールを現時点では何に設定すべきか再考するように提言する。一方で企業に対し「父親たちが、母親と同じようにますます家庭で育児の役割を果たしたく思っているし、またその必要があることを認識すべきである。」と提言する。

編集 | 後 | 記

「長時間働く社員が会社に貢献していると思える」など保守的な職場風土が米国ビジネス社会でフレキシブル勤務制度の利用を妨げていることを知り、やはり！という気持ちです。一方、日本で勤務日に子供と2・65時間費やしている父親はどれほどいるでしょうか？最近、打たれ弱い若者が多いと聞きます。子供をしっかりと社会人に育てるために、父親たちが子育てで、その役割を果たせる環境を生み出す必要を感じます。 野尻